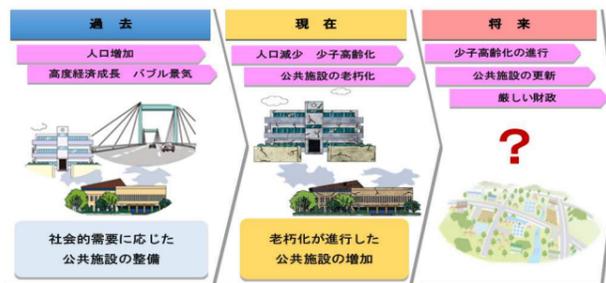


春日部市公共施設白書 概要版（平成27年3月）

1. 公共施設の目的、内容 【公共施設白書 P1~2】

○市民の皆様へ公共施設等を通じたサービスを提供し続けるためには、「まちづくりの視点」、「供給量の適正化」、「既存施設の有効活用」などの観点から、公共施設のあり方を検討し、公共施設の最適化に向けた取組を進める必要があります。



○公共施設の最適化に向けた取組を行ううえで、本市が保有、管理する公共施設等に関し、現状の把握と課題の整理を目的として、公共施設白書を作成するものです。



3. 施設状況 【公共施設白書 P33~42】

○公共施設等を建築物系施設、インフラ系施設に分類しています。
 ○建築物系施設は297施設、屋外施設は30施設があります。
 ○インフラ系施設には、道路・橋りょう、河川、上水道施設、下水道施設、公園があります。

○建築物系施設の多くは、昭和40年代から昭和50年代にかけて整備されており、将来、大規模改修・建替えの集中する大きな波が押し寄せると想定されます。

<建築物系施設の現状>

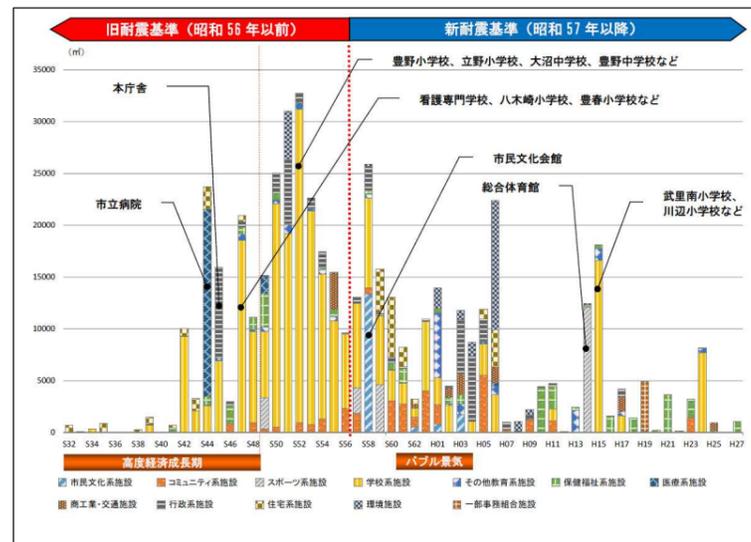
分類	施設数	延床面積	割合
1 市民文化系施設	5施設	16,463㎡	3.3%
2 コミュニティ系施設	37施設	32,675㎡	6.5%
3 スポーツ系施設	4施設	22,260㎡	4.4%
4 学校系施設	38施設	255,060㎡	50.9%
5 その他教育系施設	70施設	17,787㎡	3.5%
6 保健福祉系施設	62施設	31,545㎡	6.3%
7 医療系施設	1施設	20,071㎡	4.0%
8 商工業・交通施設	9施設	10,622㎡	2.1%
9 行政系施設	45施設	42,053㎡	8.4%
10 住宅系施設	15施設	24,480㎡	4.9%
11 環境施設	10施設	23,621㎡	4.7%
12 一部事務組合施設	1施設	4,785㎡	1.0%
合計	297施設	501,422㎡	100.0%

平成26年3月31日現在

<建築物系施設の現状 屋外施設>

分類	種別	施設数等
13 大規模公園	総合公園	2施設 228,325㎡
	地区公園	2施設 124,356㎡
14 屋外スポーツ施設	野球場	5施設
	グラウンド	9施設
	テニスコート	5施設
15 交通施設	自動車駐車場	2施設
	自転車駐車場	5施設

平成26年3月31日現在



※H27の値は、平成27年開所の武里南保育所

<インフラ系施設の現状>

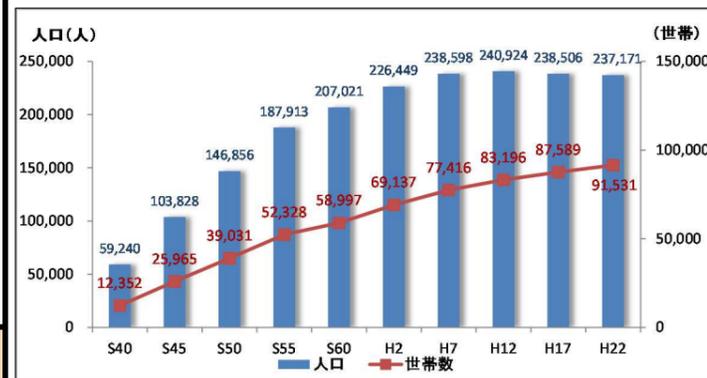
分類	種別	施設数等
1 道路・橋りょう	道路	一般道路 1,047.78 km
		自転車歩行者道 3.64 km
2 河川	橋りょう	橋りょう 601 橋 3.94 km
	河川	準用河川 9 河川 29.65 km
3 上水道施設	上水道施設	普通河川(水路) 942.33 km
		管路 844.24 km
4 下水道施設	下水道施設	管路 605.91 km
5 公園	公園	近隣公園 12 施設 175,024㎡
		街区公園 197 施設 203,654㎡
		その他の公園 65 施設 41,920㎡
		緑地・緑道等 101 施設 284,893㎡

平成26年3月31日現在

2. 人口動向と財政の状況 【公共施設白書 P21~32】

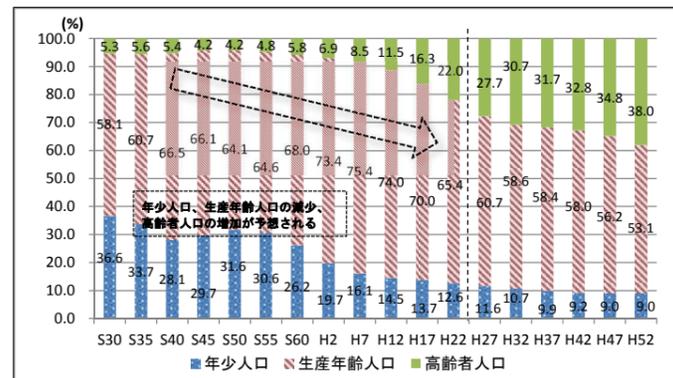
【人口動向】

○総人口は昭和40年代、50年代に急速に人口が増加しましたが、平成12年の240,924人をピークに平成17年以降は、やや減少傾向となっています。



【将来人口】

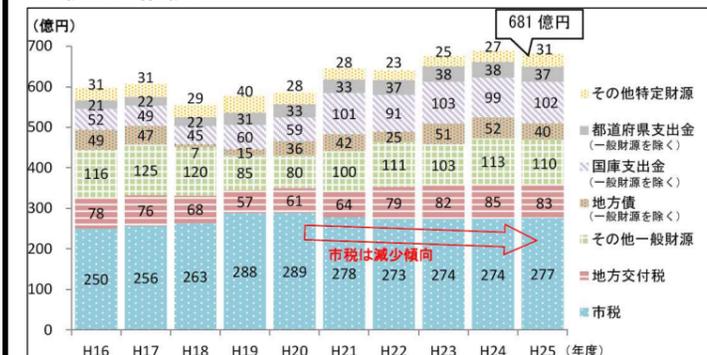
○平成32年には高齢者人口比率が30%を超え、平成52年には生産年齢人口比率が53.1%まで減少するものと推計されています。



【財政状況】

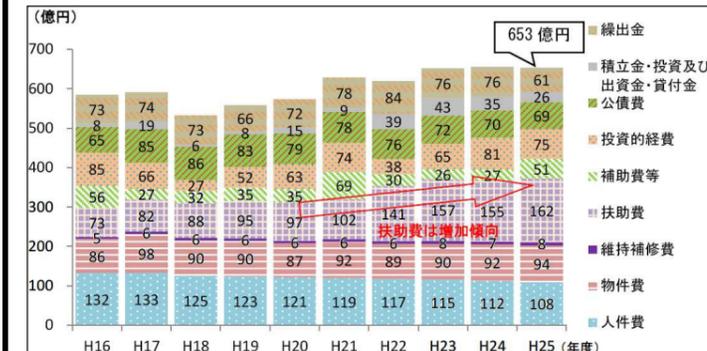
○今後は、市税の減少や扶助費の増加に伴い、市の財政状況は厳しさを増すことが想定され、投資的経費及び維持補修費に充当される財源の確保が出来なくなることが見込まれます。

<歳入の推移>



※金額は普通会計決算形式です。億円未満を四捨五入しているため、合計値は合いません。

<歳出の推移>

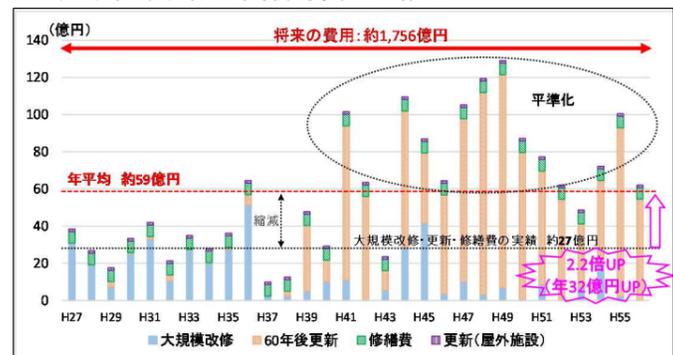


※金額は普通会計決算形式です。億円未満を四捨五入しているため、合計値は合いません。

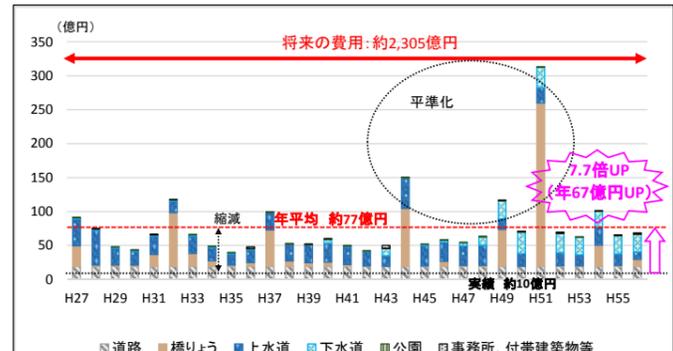
【更新等費用の推計】

○一時期に集中して改修・更新等の費用がかかることによる財政への負担が懸念されることから、このままの状態では改修・更新等を行っていくと多額の財源不足に陥る状況にあります。
 ○改修・更新等の費用の平準化に向けた取組が必要となります。

<建築物系施設の更新等費用の推計>



<インフラ系施設の更新等費用の推計>



4. 建築物系施設の現況・課題と今後の方向性 ① 【公共施設白書 P43~191】

1. 市民文化系施設

<主な施設>



【中央図書館】

【現況・課題】

- ・市民文化会館、図書館3施設、郷土資料館
- ・平成25年度では年間約86万人が利用
- ・単位床面積当たりのコストは約2万9,500円/㎡
- ・すべての施設が新耐震基準の建築物だが、市民文化会館と中央図書館は築年数が30年以上経過しており、老朽化への対応が必要
- ・利用者の拡大や多世代利用に対応するため、バリアフリー対応、開館日数や利用時間帯の拡大など、利用方法の効率化や運営方法の見直しが必要

【今後の方向性】

- 予防保全の推進等により老朽化への対応を検討
- 老朽化への対応と併せ、より多くの市民が利用しやすい施設整備を検討
- 維持管理・運営にかかるコストの適正化を検討

施設数		延床面積		運営形態		
施設数	全体に占める割合	面積(㎡)	全体に占める割合	直営	指定管理	その他
5	1.7%	16,463	3.3%	4 80.0%	1 20.0%	0 0.0%

築年数		利用者数 H25 (千人)	管理運営にかかるコスト			LCC (億円)
30年以上	30年未満		総額 (千円)	㎡当り (千円/㎡)	利用者1人当り (千円/人)	
2 40.0%	3 60.0%	860	485,198	29.5	0.56	54

2. コミュニティ系施設

<主な施設>



【中央公民館】

【現況・課題】

- ・地域センター4施設、公民館17施設、集会所16施設
- ・平成25年度では年間約94万4,600人が利用
- ・単位床面積当たりのコストは約1万4,200円/㎡
- ・築年数が30年以上経過している施設が約7割を占めており、安全性の確保や老朽化への対応が必要
- ・施設管理体制や運営方法の見直しなどの検討が必要

【今後の方向性】

- 施設の利用状況や今後の各地区の人口動向等を考慮し、利用状況に応じバリアフリー化や施設の適正配置、集約化・複合化等を検討
- 長寿命化を図る必要がある施設については老朽化への対応を検討
- 住民との協働による施設の管理・運営について検討

施設数		延床面積		運営形態		
施設数	全体に占める割合	面積(㎡)	全体に占める割合	直営	指定管理	その他
37	12.5%	32,675	6.5%	34 91.9%	0 0.0%	3 8.1%

築年数		利用者数 H25 (千人)	管理運営にかかるコスト			LCC (億円)
30年以上	30年未満		総額 (千円)	㎡当り (千円/㎡)	利用者1人当り (千円/人)	
26 70.3%	11 29.7%	945	464,145	14.2	0.49	88

3. スポーツ系施設

<主な施設>



【総合体育館】

【現況・課題】

- ・総合体育館など4施設
- ・市民体育館は平成23年に耐震改修を実施
- ・平成25年度では年間約54万4,300人が利用
- ・単位床面積当たりのコストは約8,100円/㎡
- ・市民武道館、庄和体育館は築年数が30年以上経過しており、老朽化への対応が必要
- ・施設整備と合わせ、多様化するニーズへの対応等が必要

【今後の方向性】

- スポーツニーズの多様化に対応するために、機能の複合化等による効率的な施設配置の適正化を検討
- 予防保全の推進等による施設の長寿命化を検討
- 民間活力の導入の検討や、ネーミングライツなど財源負担の軽減化等を検討

施設数		延床面積		運営形態		
施設数	全体に占める割合	面積(㎡)	全体に占める割合	直営	指定管理	その他
4	1.3%	22,260	4.4%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%

築年数		利用者数 H25 (千人)	管理運営にかかるコスト			LCC (億円)
30年以上	30年未満		総額 (千円)	㎡当り (千円/㎡)	利用者1人当り (千円/人)	
3 75.0%	1 25.0%	544	180,803	8.1	0.33	63

4. 学校系施設

<主な施設>



【春日部中学校】

【現況・課題】

- ・小学校24校、中学校13校、専門学校1校
- ・児童数、生徒数ともに減少傾向
- ・単位床面積当たりのコストは約4,100円/㎡
- ・築年数が30年以上経過している施設が約9割を占めており、継続した老朽化対策が必要
- ・余剰傾向のある学校においては、地域における様々な機能と複合化するなど、余裕施設の有効活用の検討が必要

【今後の方向性】

- 複合利用及び一部転用などの新機能の付加による新たな魅力付け等を検討
- 予防保全の推進等により老朽化への対応を検討
- 教育面だけで学校の維持管理を負擔せず、地域中核の多機能施設とすることで、他の類似機能の維持管理でも学校運営の負擔を分担して維持管理費用の適正化や管理・運営方法を検討

施設数		延床面積		運営形態		
施設数	全体に占める割合	面積(㎡)	全体に占める割合	直営	指定管理	その他
38	12.8%	255,060	50.9%	38 100.0%	0 0.0%	0 0.0%

築年数		児童・生徒数 H25 (千人)	管理運営にかかるコスト			LCC (億円)
30年以上	30年未満		総額 (千円)	㎡当り (千円/㎡)	児童・生徒1人当り (千円/人)	
34 89.5%	4 10.5%	18	1,052,626	4.1	59.09	830

5. その他教育系施設

<主な施設>



【教育センター・視聴覚センター】

【現況・課題】

- ・教育センター、視聴覚センター、給食センター、給食室28施設、学校プール37施設、教育相談センター2施設
- ・単位床面積当たりのコストは約7万200円/㎡
- ・給食室の単位床面積当たりのコストは、学校により大きな開きがあることから、施設の維持管理・運営にかかるコストの見直しなどが必要

【今後の方向性】

- 児童・生徒数の減少傾向を踏まえ、官民の連携や効率的な施設利用を検討
- 長寿命化を図る必要がある施設については、老朽化への対応を検討
- 学校系施設の複合化による管理負担の分担と同様に多機能化複合化などによる負担の軽減化を図り、維持管理費用の適正化を検討するとともに、民間活力の導入や民間による施設の管理・運営について検討

施設数		延床面積		運営形態		
施設数	全体に占める割合	面積(㎡)	全体に占める割合	直営	指定管理	その他
70	23.6%	17,787	3.5%	70 100.0%	0 0.0%	0 0.0%

築年数		利用者数 H25 (千人)	管理運営にかかるコスト			LCC (億円)
30年以上	30年未満		総額 (千円)	㎡当り (千円/㎡)	利用者1人当り (千円/人)	
45 64.3%	25 35.7%	-	1,030,433	70.2	-	47

※各施設での利用者の計上方法が異なるため、「-」で表記しています。

6. 保健福祉系施設

<主な施設>



【総合福祉センター】

【現況・課題】

- ・児童福祉施設は保育所等40施設、高齢者福祉施設は高齢者福祉センター等6施設、障がい者福祉施設はひまわり園等4施設、その他の福祉施設は総合福祉センター等4施設、保健センター2施設、公衆便所6施設
- ・単位床面積当たりのコストは約6万200円/㎡
- ・利用方法や運営方法の見直しなどにより、段階的な改善の検討が必要

【今後の方向性】

- 施設の利用状況や今後の各地区の人口動向等を考慮し、必要に応じて施設の適正配置や集約化・複合化等を検討
- 長寿命化を図る必要がある施設については老朽化への対応を検討
- 民間企業との連携等により、効率的な施設運営を検討

施設数		延床面積		運営形態		
施設数	全体に占める割合	面積(㎡)	全体に占める割合	直営	指定管理	その他
62	20.9%	31,545	6.3%	29 46.8%	33 53.2%	0 0.0%

築年数		利用者数 H25 (千人)	管理運営にかかるコスト			LCC (億円)
30年以上	30年未満		総額 (千円)	㎡当り (千円/㎡)	利用者1人当り (千円/人)	
27 43.5%	35 56.5%	-	1,810,008	60.2	-	82

※各施設での利用者の計上方法が異なるため、「-」で表記しています。

4. 建築物系施設の現況・課題と今後の方向性 ② 【公共施設白書 P192～264】

7. 医療系施設

<主な施設>



【市立病院】

【現況・課題】

- ・埼玉県東部保健医療圏の中核的医療機関
- ・平成25年度では年間約24万5,400人が利用
- ・単位床面積当たりのコストは約35万5,100円/㎡
- ・現在、平成28年開院に向けて新病院建設が進められている。今後はさらに長期的展望に立ち、老朽化に対する早めの対応が必要

【今後の方向性】

- 地域の中核的医療機関として適正規模で再整備を推進
- 計画的な長寿命化、維持補修の平準化を図り、予防保全方法など老朽化への対応を検討
- 長期的費用の縮減と平準化を進めるとともに、民間活力の導入など施設の管理・運営について検討

施設数		延床面積		運営形態		
施設数	全体に占める割合	面積(㎡)	全体に占める割合	直営	指定管理	その他
1	0.3%	20,071	4.0%	1	0	0
				100.0%	0.0%	0.0%

築年数		利用者数 H25 (千人)	管理運営にかかるコスト			LCC (億円)
30年以上	30年未満		総額 (千円)	㎡当り (千円/㎡)	利用者1人当り (千円/人)	
1	0	245	7,126,155	355.1	29.03	-
100.0%	0.0%					

8. 商工業・交通施設

<主な施設>



【道の駅 庄和】

【現況・課題】

- ・商工業施設は道の駅「庄和」等4施設、交通施設は自転車駐車場5施設
- ・平成25年度では年間約83万9,600人が利用
- ・単位床面積当たりのコストは約1万2,800円/㎡
- ・道の駅「庄和」は国道4号の全線拡幅の完了後は需要増が見込まれるため、利用者の増加に向けた取組が必要

【今後の方向性】

- 施設の利用状況や交通量、駅利用動向等を考慮し、適正配置や利便性の向上を検討
- 長寿命化、維持補修の平準化を図る必要がある施設については、予防保全方法など老朽化への対応を検討
- 有効活用されていない施設については、効率的な活用を検討

施設数		延床面積		運営形態		
施設数	全体に占める割合	面積(㎡)	全体に占める割合	直営	指定管理	その他
9	3.0%	10,622	2.1%	5	2	2
				55.6%	22.2%	22.2%

築年数		利用者数 H25 (千人)	管理運営にかかるコスト			LCC (億円)
30年以上	30年未満		総額 (千円)	㎡当り (千円/㎡)	利用者1人当り (千円/人)	
3	6	-	106,609	12.8	-	29
33.3%	66.7%					

※各施設での利用者の計上方法が異なるため「-」で表記しています。

9. 行政系施設

<主な施設>



【本庁舎】

【現況・課題】

- ・市役所等4施設、保安防災施設は消防本部等22施設、防災施設は防災センター等5施設、その他が14施設
- ・単位床面積当たりのコストは約6万5,300円/㎡
- ・建築後45年が経過している市役所現本庁舎をはじめ、保安・防災上重要な施設の老朽化が進行していることから、早期の改修による安全性の確保が必要

【今後の方向性】

- 市役所の現本庁舎は、移転建替えが検討されている
- 耐震性を保有していない施設については、安全性の確保に向けた改修や類似施設との統合等を検討
- 長寿命化を図る必要がある施設については予防保全等の取り組みを検討
- その他の施設は各施設の利用状況を精査し、利用状況に応じて用途廃止等を検討

施設数		延床面積		運営形態		
施設数	全体に占める割合	面積(㎡)	全体に占める割合	直営	指定管理	その他
45	15.2%	42,053	8.4%	31	0	14
				68.9%	0.0%	31.1%

築年数		利用者数 H25 (千人)	管理運営にかかるコスト			LCC (億円)
30年以上	30年未満		総額 (千円)	㎡当り (千円/㎡)	利用者1人当り (千円/人)	
16	29	-	2,070,210	65.3	-	126
35.6%	64.4%					

※各施設での利用者の計上方法が異なるため、「-」で表記しています。

10. 住宅系施設

<主な施設>



【西宝珠花北住宅】

【現況・課題】

- ・市営住宅15施設
- ・11施設が旧耐震基準建築物
- ・平成25年度の入居戸数は420戸
- ・単位床面積当たりのコストは約1,900円/㎡
- ・築年数が30年以上経過している施設が約9割を占めており、老朽化への対応が必要

【今後の方向性】

- 住宅系施設の長寿命化については、他の公共施設の再配置の方針を横断的視点による公共施設マネジメントに位置付けたうえで、入居者の高齢化や需要変動、生活様式の変化などに対応した市営住宅長寿命化計画に示されている方針に基づき、維持管理・改善事業を実施し、長寿命化や借り上げなどを継続して実施

施設数		延床面積		運営形態		
施設数	全体に占める割合	面積(㎡)	全体に占める割合	直営	指定管理	その他
15	5.1%	24,480	4.9%	15	0	0
				100.0%	0.0%	0.0%

築年数		入居戸数 H25 (戸)	管理運営にかかるコスト			LCC (億円)
30年以上	30年未満		総額 (千円)	㎡当り (千円/㎡)	入居戸数当り (千円/戸)	
13	2	420	45,712	1.9	108.84	71
86.7%	13.3%					

11. 環境施設

<主な施設>



【クリーンセンター】

【現況・課題】

- ・環境センター2施設、クリーンセンター3施設、資源選別センター2施設、最終処分場・清掃事務所・植木剪定枝葉チップ化施設1施設
- ・単位床面積当たりのコストは約6万2,700円/㎡
- ・ごみ処理施設とし尿処理施設は施設の老朽化への適切な対応が必要

【今後の方向性】

- 機能の複合化等による効率的な施設配置や施設総量の適正化を検討
- 長寿命化、維持補修の平準化を図る必要がある施設については、予防保全方法など老朽化への対応を検討
- 環境センターのごみ処理施設とし尿処理施設は、施設の利用状況や今後の各地区の人口動向等を考慮し、長期的費用縮減化、維持管理費用の適正化とともに民活導入を検討

施設数		延床面積		運営形態		
施設数	全体に占める割合	面積(㎡)	全体に占める割合	直営	指定管理	その他
10	3.4%	23,621	4.7%	8	0	2
				80.0%	0.0%	20.0%

築年数		利用者数 H25 (千人)	管理運営にかかるコスト			LCC (億円)
30年以上	30年未満		総額 (千円)	㎡当り (千円/㎡)	利用者1人当り (千円/人)	
3	7	-	1,396,517	62.7	-	59
30.0%	70.0%					

※各施設での利用者の計上方法が異なるため、「-」で表記しています。

12. 一部事務組合施設

<主な施設>



【埼玉斎場】

【現況・課題】

- ・3市1町で組織された埼玉斎場組合が運営している施設
- ・平成25年度では年間約3,700件の火葬
- ・単位床面積当たりのコストは約9万1,300円/㎡
- ・長期的観点で利用状況等を考慮し、今後の施設のあり方について検討が必要

【今後の方向性】

- 機能の複合化等による効率的な施設配置や施設総量の適正化を検討
- 施設の維持管理は、補修が必要な個所に対する局部的補修を実施するとともに、予防的な補修の実施や維持補修作業（作業費）の平準化を図るなどにより、老朽化への対応を検討
- 長期的費用の縮減と平準化を進めるとともに、民間活力の導入など施設の管理・運営について検討

施設数		延床面積		運営形態		
施設数	全体に占める割合	面積(㎡)	全体に占める割合	直営	指定管理	その他
1	0.3%	4,785	1.0%	1	0	0
				100.0%	0.0%	0.0%

築年数		火葬件数 H25 (件)	管理運営にかかるコスト			LCC (億円)
30年以上	30年未満		総額 (千円)	㎡当り (千円/㎡)	件数当り (千円/件)	
0	1	3,702	436,646	91.3	117.95	7
0.0%	100.0%					

4. 建築物系施設の現況・課題と今後の方向性 ③ 【公共施設白書 P265～277】

<p>13. 大規模公園</p>	<p>14. 屋外スポーツ施設</p>	<p>15. 交通施設</p>			
<p><主な施設></p>  <p>【内牧公園】</p>	<p>【現況・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合公園2公園、地区公園2公園 ・避難場所指定や都市内の緑景観地として重要な機能を有している ・「公園施設長寿命化計画」が策定されている ・老朽化の著しい大規模公園は長寿命化計画で示されている方針に基づく対応の検討が必要 	<p><主な施設></p>  <p>【牛島球場】</p>	<p>【現況・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野球場は5施設、グラウンドは9施設、テニスコートは5施設 ・平成25年度では年間約41万6,600人が利用 ・平成25年度の維持管理・運営コストは、有料施設で約1億600万円、無料施設でも年間に約1,900万円のコストがかかっている ・有料施設における今後の集客方法や、利用者サービス、利便性の向上等の検討や施設の運営方法の見直しなどの改善が必要 	<p><主な施設></p>  <p>【粕壁二丁目自動車駐車場】</p>	<p>【現況・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車駐車場は、武里駅西口自動車駐車場、粕壁二丁目自動車駐車場があり、利用可能台数は、それぞれ14台、11台 ・自動車駐車場の施設利用料は全て有料 ・屋外型の自転車駐車場5か所のうち、南桜井駅西側自転車駐車場のみ有料 ・施設の老朽化に対する応急的な修繕から、予防的な早めの対応が必要
<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今後は施設の利用状況や各地区の人口動向等を考慮し、予防保全などによる老朽化への対応を図るとともに総量の適正化を検討 ○公園施設長寿命化計画との整合を図り、長期的費用の縮減と平準化や維持管理費用の適正化等について検討 			<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今後は施設の利用状況や各地区の人口動向等を考慮し、長寿命化、維持補修の平準化を図る必要があり、予防保全などによる老朽化への対応を検討 ○長期的費用の縮減と平準化を進めるとともに、民間活力の導入等による効率的な施設の管理・運営について検討 		<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今後は、施設の利用状況や各地区の人口動向等を考慮し、長寿命化、維持補修の平準化を図る必要があり、予防保全方法など老朽化への対応や施設の集約を検討 ○長期的費用縮減や平準化、維持管理費用の適正化、民活導入を検討

5. インフラ系施設の現況・課題と今後の方向性 【公共施設白書 P278～293】

<p>1. 道路・橋りょう</p>	<p>2. 河川</p>	<p>3. 上水道施設</p>	<p>4. 下水道施設</p>	<p>5. 公園</p>
<p><主な施設></p>  <p>【はなみずき橋】</p>	<p><主な施設></p>  <p>【ポンプ場】</p>	<p><主な施設></p>  <p>【西部浄水場】</p>	<p><主な施設></p>  <p>【下水道】</p>	<p><主な施設></p>  <p>【粕壁東第3公園】</p>
<p>【現況・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般道路の実延長は約1,048km、道路面積は約567.4万㎡ ・自転車歩行者道は実延長が約3.6km、道路面積約1.1万㎡ ・橋りょうは、総数が601橋、今から40年前に当たる昭和40年代中期から平成初期にかけ、多く建設 ・社会構造の変化、経済状況や社会情勢に応じた検討が必要 	<p>【現況・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準用河川は9河川、普通河川は約942km ・ポンプ場・排水機場・調整池等は60施設、事務所などは9棟、揚排水機場は2施設、事務所、付帯建築物等は2棟 ・各揚排水機場は建築後30年が経過 ・台風やゲリラ豪雨等への対処では、河川・水路施設の導水機能や、保水・遊水機能の向上が必要となり、関係する施設の維持管理を継続して行うことが必要 	<p>【現況・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配水管・送水管・導水管の延長は約844km、浄水場は5施設、配水池は13施設、混和池、着水井等は8施設、事務所、付帯建築物等は19棟 ・昭和40年代～50年代（概ね30～40年前）の整備量が最も大きく、以降は減少傾向 ・アセットマネジメント手法を活用した水道施設長期更新計画で示されている方針に基づいた対応の検討が必要 	<p>【現況・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管路の延長は約606km、ポンプ施設は2施設、事務所、付帯建築物等は5棟 ・昭和63年度の整備量が最も大きく、以降は減少傾向 ・敷設の履歴や地域状況から継続的・段階的に長寿命化や維持補修の平準化の検討が必要 	<p>【現況・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣公園は14施設、街区公園は197施設、その他の公園は65施設、緑地・緑道、ちびっこ広場、運動広場、遊水地広場は101施設、公園施設の「便所」は68棟、事務所、付帯建築物等は1棟、その他は1施設 ・施設の優先整備や機能の重要度を検討し、今後の施設整備方法を行政と利用者で共通認識しておくことが必要
<p>【今後の方向性】</p> <p>■道路</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会構造の変化を踏まえた適正な供給を検討 ○道路未整備都市計画道路については機能特性や利用者ニーズにより整備の優先度を検討 ○計画的な予防メンテナンスサイクルの確立を検討 ○財政負担の軽減化を図るための維持管理費用の適正化、民活導入を検討 <p>■橋りょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定期点検の結果を踏まえ長寿命化、維持補修の平準化を検討 ○「橋りょう長寿命化修繕計画」との整合、必要に応じた見直しを検討 ○「橋りょう長寿命化修繕計画」の対象に無い施設は、定期点検による維持管理を検討 	<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○近年、頻発する台風やゲリラ豪雨等に備え、適正な維持や更新を検討 ○長寿命化、維持補修の平準化を図る必要がある施設については、予防保全方法など老朽化への対応を検討 ○財政負担の軽減化を図るための維持管理費用の適正化を検討 	<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少子高齢化による生活様式の著しい変化や、水需要、水質に関する要請など市民ニーズが多様化する中で、適正な修繕や更新を検討 ○「アセットマネジメント手法を活用した水道施設長期更新計画」との整合を図り、必要に応じた見直しを検討 	<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長寿命化、維持補修の平準化を図る必要がある施設については、予防保全方法など老朽化への対応を検討 ○財政負担の軽減化を図るため、維持管理費用の適正化を検討 	<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○老朽化の著しい公園は長寿命化計画で示されている方針に基づき対応を検討するとともに、社会構造の変化に応じて「公園施設長寿命化計画」の見直しを検討 ○「公園施設長寿命化計画」の対象に無い施設で、長寿命化、維持補修の平準化の必要な施設については、予防保全方法など老朽化への対応を検討 ○維持管理費用の適正化を検討 ○利用者（市民など）が行政との協働管理に参加しやすい様に、協定、規約などの取組を検討